

いざ、実践！

【訓練のポイント】

避難所開設訓練はより実践的な訓練にするため、避難者の受付業務も実施しました。訓練の流れの中で、参加者が特に重要だと感じたポイントを紹介します。各自治会の代表者が参加し、湖北中学校で避難所開設マニュアルに沿って行います。



①区画分けはバランスが大切！

ロールマットを敷き、自治会ごとに滞在スペースを区画分けしていきます。指定する一人あたりのスペースの広さによって、避難後の住環境を大きく左右するといわれており、快適度と収容人数のバランスが重要です。区画はアルファベットの看板で示し、受付で指示があった場所がわかりやすいように工夫します。



③備蓄倉庫を確認！

飲料水や毛布など、必要な備蓄品を確認します。災害用毛布は、体温管理のため必要です。

④全員が設営手順を把握する！

開設手順を学びます。

被災時の人員不足を補うため、参加者全員がマニュアルをもとに手順を覚えます。



⑥プライバシーに配慮する！

集団での生活を余儀なくされる避難所では、プライバシーの確保が課題となります。更衣・授乳などに使えるスペースとして応急的な仕切りを作ります。



【訓練で見たこと】

第3回目の訓練では、避難所の開設にかかった時間は約15分。回を重ねることに、訓練の成果が現れてきています。

■良かったこと

避難所の開設手順が把握でき、備蓄倉庫の備蓄状況の整理をしていたことで短時間で避難所開設ができました。

■気づいたこと

滞在スペースを区画分けしてみると、実際の避難時には、避難所のスペースが不足すると想定される。

■今後の課題

よりスムーズに、より正確に避難者受付ができるシステム作りと、役割を自主的に判断し、実際の開設を十分意識して行う訓練となるよう改善が必要です。

地域の実情を把握する！

防災マップの作成

■西黒田地域づくり協議会



平成25年・26年にDIGと呼ばれる手法を用いて災害時図上訓練を行いました。参加者が大きな地図を囲み、みんなで危険箇所や安全だと思ふ避難経路を書き込みながら議論をしていきます。そしてこの情報を共有し、各自治会ごとに住民の気づきが反映された防災マップとして取りまとめ、平成27年には看板に仕上げ、各自治会館などに設置しました。

西黒田地域づくり協議会は「地域の防災上の長所・短所が情報として共有でき、地域住民の防災への意識が高まってきた」と評価しています。また、地域を一番よく知るのは地域住民であることから、「今後も知恵を出し合っ、地域防災についての情報共有を継続して行っていく予定です」



ゲームで養う、判断力！

避難所運営ゲーム(HUG)

■神照地域づくり協議会

毎年8月に実施する防災研修会において、避難所運営ゲーム(HUG)を実施しています。これは、「災害時における避難所運営について考えておくべき」という思いから静岡県が開発したゲームです。カードと仮想避難所の図面、掲示板を使ったもので、1組7人程度のグループを複数つくり、ワークショップ形式で行います。各カードには、避難者の抱える様々な状況が記載されており、その状況に応じてどの場所を避難者に割当てるかを避難所の図面に配置していきます。その後は、他グループと情報共有を行い、避難者の受入れや避難所の運営方法について討論を重ねました。協議会では、「避難者自らが、避難所運営を主体的に取り組まなければ成り立たない」という思いのもと、今後は、この訓練での学びを活かした新しい取組を実施していきます。



女性消防団の取り組み

長浜市消防団本部は、現在19人の女性消防団員が所属しています。平成10年に発足し、今年で活動19年目になります。地域の女性が、地域の防災や救命に関する広報活動をはじめ、月に1度消防署による講習会を受講し、防災や救命の知識の習得にも取り組んでいます。

●入団の動機

「地域を支えるために何かしたい」

「女性ならではの視点で啓発活動をした」

「女性の視点で、多くの人の関心を持ってもらう広報活動ができます。例えば踊りで救命活動を紹介する救命ダンスを行っています」

●今後の抱負

年々防災や救命意識は高まっていくと感じますが、今後必ず起こる大災害に備えてさらに積極的に活動します」



■行政出前講座

行政出前講座では災害に強い地域づくりのきっかけとなる講座がありますので、ご活用ください。

■自主防災のすすめ 防災出前講座

自主防災組織の取組紹介等を通して、防災知識の習得と意識の高揚を図る講座

問・申 防災危機管理局 (065-65555)

姉川コミュニティセンター (064-5281)

■避難所開設運営訓練(HUG)

避難所を開設・運営に関する疑似体験プログラム
問・申 防災危機管理局 (065-65555)